

◇ 美濃市の学校再編成方針 ◇

平成14年度策定

基本的な考え方

美濃市の将来を担う子どもたちの教育の向上をめざし、複数指導者による指導、図書館教育の充実、体験学習の拡充など、より良い教育環境を整え、教育効果をより一層高めるため、学校規模の適正化を図ります。

基本的には、美濃市学校再編成懇談会の提言の主旨と、今日までの市民の皆様方のご意見ご要望を尊重し、学校再編成を推進します。

再編成の方策

1. 小・中学校の規模

(1) 小学校の学級規模

- ①毎年40名を超える児童が入学する規模を適正とします。
- ②1学級は30名以下とします。ただし、20名を下回らないことが望ましい。
- ③1学年は3学級前後が適当です。

(2) 中学校の学級規模

- ①毎年60名を超える生徒が入学する規模を適正とします。
- ②1学級は30名以下とします。ただし、20名を下回らないことが望ましい。
- ③1学年は4学級前後が適当です。

2. 小・中学校の学校数

(1) 小学校 4校

- ①北部地区 長瀬小学校、片知小学校、蕨生小学校、神洞小学校及び上牧小学校を1校区とし、場所は現蕨生小学校の位置とします。
- ②中央地区 美濃小学校、洲原小学校及び立花小学校を1校区とし、場所は現美濃小学校の位置とします。
- ③西部地区 大矢田小学校及び藍見小学校を1校区とし、場所は現藍見小学校の位置とします。
- ④南部地区 中有知小学校は1校区とします。

(2) 中学校 3校

当面、現在の3校区とします。

3. 学校再編成の実施時期

(1) 小学校

- ①北部地区 (ア) 長瀬小学校、片知小学校、蕨生小学校及び神洞小学校については、平成15年度に実施し、場所は当面、現長瀬小学校の位置とします。
(イ) 上牧小学校との再編成については、実施するための方策について地域と協議し、上記(ア)の学校と上牧小学校のいずれかの学校において、複式学級が見込まれる年度に実施します。場所は現蕨生小学校の位置とします。
- ②中央地区 平成16年度を目標に実施します。
- ③西部地区 再編成を実施するための方策について、地域と協議し、大矢田小学校と藍見小学校のいずれかの学校において、複式学級が見込まれる年度に実施します。

(2) 中学校

将来、生徒の減少状況により、再編成の実施の方策について地域と協議し、学級規模等教育上支障をきたす時期に、段階的に実施します。

4. 再編成実施前の学校間交流

児童の精神面等を考慮し、授業や行事の交流とともに、保護者の不安解消のため、保護者や地域の交流を進めます。

5. 再編成に伴う遠距離通学の方法

- (1) 再編成に伴う遠距離通学の緩和を図るため、スクールバスを運行します。
- (2) 通学距離が2Km以上の通学集団の児童を対象とします。ただし、2Km未満の場合であっても、2Km以上の通学集団と同一集団の児童は含みます。
- (3) 運行方法は、児童の健康管理、安全性、校区内の実情等を考慮し定めます。

6. 再編成後の学校施設の活用

社会教育施設、社会体育施設、福祉施設等市民活動の拠点として、また、地域の活性化施設として活用を図ります。